特別ワークショップ

「「オイルショック」から50年：石油危機は、産油国、国際政治と日本をどう変えたのか」

開催日時　2023年10月5日（木）
17:00～20:00

場所：東京大学駒場キャンパス　18号館ホール　(目黒区駒場3－8－1)

プログラム

「石油危機は湾岸産油国に何をもたらしたか」(松尾昌樹　宇都宮大学)
「9.11とイラク戦争の出発点としての石油危機」(千葉大学　酒井啓子)
「日本・中東関係再考：石油を超えて」(保坂修司　日本エネルギー経済研究所)
「アラブ・アブラ外交から重層的交流まで」(片倉邦雄　元駐エジプト・イラク・UAE大使)
インタビュー：片倉大使に聞く
総合討論　司会　鈴木啓之（東京大学中東地域研究センター）

半世紀前の1973年10月、第四次中東戦争でイスラエルと対峙するアラブ産油国は、「イスラエルを支援する国々には原油の輸出を行わない」との決定を行い、原油価格が急騰しました。
本ワークショップでは、「石油危機／オイルショック」が国際政治や、日本の政治経済にどのような意味を持ったのか、その後どのような影響を与えたのかを振り返り、今後この出来事からどのような教訓を学ぶべきかを、中東研究者と元外交官をお呼びして、論じます。

＊オンラインでご参加希望の方は、こちらからお申込みください。
https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZMldu6rqD-wuHtHjbxWR5mOZiRDCaT1IqbhP

問合先：東京大学中東地域研究センター　03-5465-7724
suzuki@utcmes.c.u-tokyo.ac.jp